

音楽教育講座 劉 麟玉 教授

ESDの理念に基づく奈良県の
わらべうたを用いた教材開発

キーワード わらべうた/ 伝統音楽/ ESD/ 教材開発/

どのような研究をなぜ行っているか

本研究の主な目的は、音楽科教育において、ESDを具体的かつ確実に実現させていくため、奈良県で伝承されてきたわらべうたを教材とする授業実践プランを開発し、奈良県内の小・中学校に提供すること、そして、本学学生を対象に、本プランをもとにした授業実践力を育成し、音楽科として郷土やわが国の伝統文化の持続発展に貢献できる態度や能力を子どもたちに育むことのできる教員の養成に寄与することである（2016年）。



写真は音楽教育講座の学生と卒業生が開発したわらべうた教材を演奏した風景。

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

この研究理念に基づいて開発されたわらべうたの作曲・編曲の作品（本学教員・北條美香代氏による）は様々な場面で活用され、演奏されることができる。

1. 学部・大学院の教材開発、教材研究の範例として活用することができる。
2. ESDにおける地域の文化財の理解・保存と推進に役に立つことができる。
3. 国際交流の場において日本の伝統音楽の一例として活用することができる。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

本研究成果は地域社会貢献と国際貢献の二つの目的を果たすことができた。

1. 奈良市音声館と王寺町地域交流センター のリーベルホールにてわらべうたコンサートを開催し、開発した教材を演奏した(2017年10月28日・29日)。
2. 香港教育大学にて開催された国際交流演奏会にて演奏した（2018年3月2日）。
3. 2017年以降の学部・大学院の授業及び免許更新講習の教材として活用された。